

# Jazz Interview vol.78

## ★ 4年振りの来日公演も果たしたジャズサックスのアイコン！★ カーク・ウェイラム【Kirk Whalum】



Photos by Evelyn Freja

★ 本誌前号「Vol.77」で、最新アルバム『エピック・クール』を紹介させて頂きました。サウンドもとても素晴らしく、メロディックで官能的な「ピロウ・トーク」、タイトル曲の「エピック・クール」、そして、ラストの「ユー&サンディ・モーニング」等も気に入っています。この作品について、日本のファンにコメントを聞かせて下さい。

ありがとう！このレコーディングにはとてもエキサイトしているんだ。非常に混雑したフィールドで、その中には多くの優れたものも、また、かなりの量の凡庸なものも含まれるけれど、私のプロフィールと自信が一手に引き上げられたんだ。これは判断として言っているわけではなく、多くのアーティストは私が嘗てそうだったように、旅の始まりに過ぎない。しかし、その多くは心に響き、作曲家やアーティストの種族、背景、信念、人生哲学、精神などを表現することを意図していなかった。単なる音であり、特定のフォーマットに合わせた音符とリズムを使っているだけでね。私には、演奏と作曲のスキルを育む時間が与えられ、また自分自身を見つけ、より本格的に自分の種族や精神などと繋がることのできたんだ。そして、このレコードは素晴らしいスイスのキーボード奏者・プロデューサー、グレッグ・マニングとのコラボレーションにより、私をこれまでのどのプロジェクトよりも際立たせてくれたんだ。

★ 参加メンバーはどのように決めたのですか？

このプロジェクトのためのミュージシャン選びはとても簡単だったよ。ステージ上で左と右、そして後ろを見れば良かっただけだからね！グレッグと私はレコーディングのためにツアーバンドを使用することに非常に安心感を持っていたし、スペシャルゲストも加わったんだ！

米国テネシー州メンフィスの出身。7月11日に66回目の誕生日を迎えたカーク・ウェイラム。1985年にソロデビューを果たし、2011年にレイラ・ハサウェイをフィーチャーした「イツツ・ホワット・アイ・ドゥ」でグラミー賞を受賞。映画「ボディガード」の主題歌として知られ、大ヒットを記録したホイットニー・ヒューストンの代表曲「オールウェイズ・ラヴ・ユー」の名演でも注目を浴びた。今年5月にリリースしたばかりの最新アルバム『エピック・クール』でも素敵なプレイを聴かせてくれている。

6月26日&27日にブルーノート東京で4年振りとなる来日公演を行い、6月29日には「村上春樹 produce 村上 JAM vol.3 ~熱く優しい、フュージョンナイト」にも出演を果たした。常にお洒落でスタイリッシュな佇まいも魅力で、円熟味も増して、益々輝きを放つカーク・ウェイラム。情感溢れる音色でジャズ・フュージョン界をリードするジャズサックスのアイコンとのスペシャルインタビューが実現！

【2024年8月取材・文：加瀬正之】

★ 6月26日&27日にブルーノート東京で演奏されましたが、コンサートはいかがでしたか？

とても楽しかったよ!!! この新しい曲が、普段はあまり表情豊かでないブルーノートの観客に、これほど喜んでもらえて本当に嬉しかった！ 私たちは皆、とても感謝していて、セツトについても心地良さを感じていたね。そして、各公演で素晴らしいブルーノートのシェフたちによって提供された絶品の食事めずこく楽しみにしていたんだ（特にパティシエ）！バックステージのスタッフたちも私たちをとてもアットホームに、そして、“祝福されている”と感じさせてくれたので、ステージ上でさらに良いパフォーマンスをしようと思ったんだ！

★ 6月29日には「村上春樹 produce 村上 JAM vol.3 ~熱く優しい、フュージョンナイト」にも出演されましたが、ご存知のように、村上春樹さんはとても有名で偉大な日本の作家です。このコンサートはいかがでしたか？ また、バックステージやプライベートで村上春樹さんと会話する機会などありましたか？

“村上様”と同じ空間にすることができて、とても感動したね。これは本当に素敵な偶然だった！ステージ上の素晴らしいミュージシャンたちは言うまでもなく…、正にオーマイゴッド！という気持ちだったよ。村上さんと短い会話をするこもできたんだ。現在、彼の作品を全て集めることに尽力しているんだ。私は読書が大好きなんだね。

★ 日本のイメージについて聞かせて下さい。また、日本で特別な思い出などあれば聞かせて下さい。

日本については、挙げきれないほどたくさんの思い出



があるよ。初めて日本に来たのは1985年か86年で、その後はボブ・ジェームスと何度も、ラリー・カールトン、そして、ホイットニー・ヒューストンと数回、その後は自分のバンドでも何度も訪れたね。それでも、決して十分ではないんだ！日本は私（そして、妻のルビーも）の“幸せな場所”だから、できるだけ頻りに訪れているんだ。今日は鎌倉の美しい寺院や神社を見て、もちろん素晴らしいお刺身も楽しんだよ。ここで一番の思い出は、パフォーマンスの後にお寿司やビール、韓国料理やしゃぶしゃぶに行くこと。また、数年前にデュオアルバム『ジョインド・アット・ザ・ヒップ』を再リリースした際には、メンターでありコラボレーターでもあるボブ・ジェームスと一緒にパフォーマンズをして、親友のチャック・ローブを失った後はフォーブレイとしても演奏したんだ。

★ 強い影響を受けたサクソ奏者を3人挙げて下さい。

ハンク・クロフォード、アーネット・コブ、チャールス・ロイドだね。

★ 影響を受けたジャズのアルバムを3枚挙げて下さい。

『フォレスト・フラワー』（チャールス・ロイド）  
『ライヴ・イン・ジャパン』（クルセイダーズ）  
『ザ・ベスト・オブ・チャールス・ロイド』（チャールス・ロイド）

★ ホイットニー・ヒューストンの大ヒット曲「オールウェイズ・ラヴ・ユー」でサクソ・ソロを演奏されていますが、ホイットニーとの特別な思い出やエピソードはありますか？

一度バルセロナでの公演中、私のバンドがオープニングアクトも務めていた時があった（私が彼女と一緒にパフォーマンスをしていたのも含めてです）。私たちのバンドは、素晴らしいと感じたシーフードレストランを薦めて、そのレストランの名刺をポビー・ブラウンに直接渡したんだ。彼らは後でそのレストランに食事に行ったんだけど、その夜、ホイットニーは食中毒で部屋の隅に丸まっていたんだ。翌日を境に（おそらくその後数年間）、4万人以上の人々が彼女の歌声を惜しみ、その欲を満たされずにいたんだ。

★ いつもお洒落でスタイリッシュですが、お気に入りのブランドはありますか？

服は大好きだよ！ただ、4人子供の父親として予算に気を付けているから、服に多くのお金を使うことはないよ

（笑）。そのため、特別なものを探ることが多いね。あと、ユニクロやザラ、無印良品も好きで、どれも手ごろな価格でファッションを楽しめる場所だね。

★ 音楽以外の趣味について聞かせて下さい。

スクーターに乗ること、ピンポンをするのも好きだよ。

★ 今年や来年2025年に特別なプランはありますか？

2024年の計画は、アメリカで『エピック・クール』のリリース記念ツアーを行うこと。そして、2025年には、ヨーロッパ、アフリカ、中東、オーストラリア等で『エピック・クール』のリリース記念ツアーを行いたいと思っている！！プロモーターの皆さん、もしこのメッセージをご覧になったら、担当のソハイラ・キューデ（Sohayla Cude）宛てにご連絡下さい。cude@prominentglobal.com 🥰

★ 目標や夢は何ですか？

世界中にキリストが私たちに捧げた愛を表現、実現し、私の子供やその孫たちが繁栄し、神から与えられた目的をもって歩む姿を見守りたい。そしてもちろん、53年間の恋人であり妻でもあるルビーと共に旅を続けたい。

★ 最後に、The Walker's 読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

私たちの世界の平和を祈ってください。そして、自分とは異なる誰かに優しく接してください。🙏

【カーク・ウェイラム オフィシャル・ウェブサイト】

<https://kirkwhalum.com/>



『エピック・クール』  
カーク・ウェイラム

2024.5.17 発売  
Aistry Music/Mack Avenue  
Records : ART-7084  
(Import CD)

カーク・ウェイラムの渾身のニューアルバム！